

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年11月8日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	469030045号
法人名	有限会社 三井・メディックス
事業所名	グループホーム新川
所在地	鹿屋市新川町5385-1 (電話) 0994-40-5750
自己評価作成日	平成30年7月9日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成30年10月27日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑顔で満足あきらめない」を理念に、開設時より排泄介助について、つかまり立ちが出来る、座位保持が出来ることを確認すると、入所時におむつ排泄であっても、トイレ誘導を繰り返している。その結果、「トイレに行きたい。」と、伝えることができたり、尿漏れパットが不要になるなど、部分的な介助は必要ですが、「トイレに行く」という「自立支援」のサポートが出来ていると思います。また、口腔ケアは、歯科医の協力を貰い、毎月、衛生士さんより口腔チェックと、ケアのアドバイスを頂きながら、「いつまでも口から楽しんで食べる。」取り組みも継続しています。転倒などのリスク面も、離床センサーマットを使用しますが、繰り返し居室の呼び出しボタンを押す事を伝えたことで、センサーが不要になることもある為、行動を制限せず、利用者様が持つ力、出来るような事(可能性)を意識し他関わりを持つようにはしています。出来る喜びは、介護している職員もやりがいにも繋がっています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 入所者は、認知症の自立度も低く、平均で「要介護4」と重度化している。車いすで移動される方も半数を超えるなど重介護となっているが、職員は転倒や転落などの事故がないようリスク管理を行い、環境整備し入浴などは、浴槽に設置された移動用リフトを活用して個々の入浴方法を検討しながら、浴槽にゆっくりと浸かり入浴が楽しめるようケアに努めている。ホームの理念でもある、「笑顔で満足あきらめない」が、ケア実践の随所に活かされており、食事や排泄、入浴の自立支援に積極的に取り組んでいる。
- 職員は、長年勤務しており定着率が良く管理者との関係性も良好である。職員は休憩時間について検討したり、台風時の早出には手当を支給している。また、昼食代は無償である。公休や年休は年間で決めており、年末年始の勤務も平等を期する方法を採用している。
- 防災意識の高いホームであり、避難訓練や断水をシュミレーションして訓練し、訓練の結果を踏まえ今後の課題や改善策を検討するなどして災害時に役立つように考えている。玄関には、備蓄があり、いつでも屋外に持ち出せるようにしてある。浴槽には、常時水が張られている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域の中で、笑顔で満足、あきらめない」を理念に、利用者が出来るような事、楽しみごとを意識しながら、取り組みを続けています。	職員は、年1回振り返りの機会を設け理念を共有し、高齢化や重度化、認知症の進行などがあっても、あきらめないケアを目指し、尊厳を意識し利用者の自立支援に繋がるよう支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新川子ども会と、七夕交流、サロンの参加、中学生の体験学習受入れ、運営推進会議を通し、地域との交流機会を維持しています。	町内会に加入し、広報誌は町内会長が直接ホームに持って来てくれたり、地域サロンへの参加や七夕祭りを通じて子ども会と交流している。管理者は、より一層地域とつながれるようなイベントの検討や地域貢献をしたいと考えている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	中学生の体験学習受入れを通し、認知症の方が苦手になっていること、サポートすることで、生活しやすくなる事など関わるなかで、理解することもあります。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム内の活動の様子、インシデント内容などから、メンバーより意見を多く貰うことや、反対に報告内容から、「初めてした。」「勉強になる。」等の意見も頂いています。	議事録は、硬くなりがちな文章を写真を効率よく掲載することで興味を持って記事を読むことができるよう工夫されており、家族に配布されている。町内会長を始め多方面からのメンバーの参加があり、活発な意見交換がされ出された意見はサービスの質の向上に活かされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーとして参加や、介護支援専門員の研修などあり、積極的に参加しています。普段でも分からない事、確認したいことはメールなどで質問し丁寧に回答していただいています。	市担当者とは、電話やメールなどで情報を共有し、入所相談や医療行為などについて意見交換したり、研修会への案内があり勤務調整するなどして参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	学習会等で、不適切とされるケアについて、学ぶ機会や、ミーティングでも積極的に意見交換をする機会も維持しており、拘束等の抑制に繋がらないように取り組んでいます。平成30年から適正化もあり、より意識しながらサービス提供に努めています。	今年度法改正があり、身体拘束適正化のための対策を検討する委員会の開催回数のほか指針内容の見直しをしている。月1回の学習会やミーティングでは、事例の資料を配布して知識や技術を研鑽している。また、積極的に社会福祉協議会開催の研修会に参加している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会等で、虐待に当る行為について学ぶ機会は維持しています。不適切なケアに関しても、日頃より意見交換をする機会もあります。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加する機会がありました。参加できなかった職員には、参加した職員が資料や研修内容を伝えるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に、契約書など書類記載を行っているが、入居相談時に、料金や、加算関係、入院時の取り扱いなどの説明させていただいています。介護保険制度改正について、文章で説明させていただき、ご理解の上で利用継続もいただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、担当者会議の中で、要望やケアに関するご意見など伺う事があります。御家族の意見や要望を取り入れながら、ご家族も含めて、利用者の生活をサポートさせていただいています。	管理者や職員は、面談時や担当者会議などで意見、要望などを聞き取りサービスに反映するよう努めている。また、法人と運営について話し合いを持ちながら、入所者や家族が不利益を被ることがないように最善の策を講じ、利用者の情報を共有し協力関係が築けるよう配慮している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、ミーティングを開催し、意見交換の機会を維持しています。それぞれの考えは、積極的に提案することもあり、伝え易い雰囲気意識しています。	長年勤務する職員も多く、関係性は良好で離職も少ない。法人は、職員が無理なく業務に取り組めるよう、早出の待機手当を支給したりするなど職場環境・条件の整備に努めている。管理者と職員のチームワークも出来ている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当があり、介護福祉士の資格を取得する職員もいます。現時点では出来ていないが、職員数を増やし、リフレッシュ休暇や、休みが取りやすい環境を作り、働き易い環境を作りたいと考えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月、学習会を実施し、学習テーマに沿って、テーマについて、グループワークを実施し、自身の考えを伝えることを意識してもらうようにしています。外部研修も、機会があれば参加するようにしています。</p>			
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部研修に参加することで、同業者と交流する機会、ケアの内容について、気づきの場になってます。また、同法人施設と学習会は合同で実施し、職員間の交流機会や、事例検討発表を通して、互いの取り組みを知る機会になっています。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申し込みがあったとき、現在生活している場所に訪問することや、本人が伝えることが難しいことも多いため、担当のケアマネージャーや、相談員、ご家族から情報を頂くことも多くあります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所について相談の時点で、困りごとや、要望など何うようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談時に、現在のサービス利用状況、御家族、本人の困りごと、どのような生活を望んでいるのか、また他のサービスについて情報提供をすることもあります。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が出来そうな、家事、作業など一緒に実施することで、毎日の役割になる事もあります。調理についても、毎回は実施できませんが、時々一緒に食材の処理に参加してもらう機会も作るようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時に、ご家族も一緒にサポートしていただくことを伝えています。外出支援、受診など、出来そうな事は協力していただいています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容師の方が、施設に来て、カットしていただいたり、近隣の方の訪問や、地域サロンへ出かけることで、なじみの関係が維持できるようにサポートしています。	友人、知人や学校時代の教え子の訪問などがあったり、家族や職員と個別に外出を楽しんでいる。また、訪問のヘアカットの方とも馴染みの関係になっている。毎年クリスマスに「個人アルバム」をプレゼントし、その方に関係した人や馴染みの場所に触れる機会を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホームの活動を通し、利用者との交流機会を維持しています。気の合う利用者同士で、会話が弾むこともあります。一人の利用者様が洗濯物をたたんでいると、他の利用者様が、自然と手伝っていることも多くあります。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了している後家族が、現在も運営推進会議に参加していただいています。退居後、ホームに遊びに来ていただいたり、買い物などの場所で、偶然会うこともあり、気軽に声をかけていただいたりしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族にこれまでの生活習慣、楽しみにしていたこと、趣味など伺いながら、生活の中に取り入れることもあります。その方の反応を確認しながら、思いや希望に添えるように努めています。	失語症があっても利用者の気持ちを汲み取り、自分の意志や希望などが表出しやすいよう、コミュニケーション活動に努め関係性を良好に保ちながら、利用者の思いに触れ生きがいに繋がったり、自立支援になるよう職員や家族と情報共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族にこれまでの生活習慣、楽しみにしていたこと、趣味など伺いながら、生活の中に取り入れることもあります。その方の反応を確認しながら、思いや希望に添えるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事など、決まった時間はありますが、その方が休んでいたり、お腹がすいていないなどの理由で、食事の時間に食事が出来ない場合は、その方の時間に合わせるようにしています。一人ひとりのペースも違うため、日課活動なども合わせるように心がけています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前は、担当ケアマネージャーや、相談員、入院先の看護師などより情報を貰い、本人や家族が望む事が可能になるよう介護計画や、サービスを提供しています。	利用者の情報収集した結果を分析し、目標達成に向けて家族や職員と話し合い、3ヶ月毎にモニタリングを実施、プランの見直しも柔軟に取り組んでいる。また、遠方の家族でメールに介護計画書を添付し意見交換している方もいる。年1～2回程度、市主催のケアプラン勉強会に参加している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録担当を振り分け、個人が楽しめたこと、気になっていることなど記録し、情報を共有できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者個人ごとに、かかりつけ医で継続してサポートしてもらっています。受診は、ホーム看護師が主にサポートしています。入院期間中は、ご家族や、相談員との連絡を取り、早めに退院ができるように配慮しています。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の消防団と防火訓練の実施や、子ども会、サロン等に参加する中で、地域の方とのかかわりを維持しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の変更はなく、信頼している医療機関を継続して受診してもらっています。ご家族で受診を希望される方もいますが、ホーム看護師、介護職員で定期受診、臨時受診などサポートしています。	本人、家族が希望するかかりつけ医である。訪問診療や外来受診にて適切な医療が受けられており、受診時は、看護師が付き添い医療との連携が図られている。また、医療に関する勉強会も実施され、薬剤師と連携し内服薬の知識や取り扱い方、誤薬などがないよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当該ホームでは、看護師配置があり、日常の健康管理や介護職員から相談など連絡体制も整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	長期入院により、認知症の進行予防、身体機能低下を避けるため、入院先の医療相談等と連絡する中で、治療期間が終了、リハビリ期に移行するタイミングなどを見ながら、早めに退院できるようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の状況によりですが、年齢や病気などから、今後予測される状況を入所前に説明をする場合もあります。医療管理が主になった場合、当該ホームで実施できること、できないこと、食事が経口から摂取できなくなった時の事も話をさせていただくこともあります。	「身体拘束等の適正化に関する指針」を今年度整備した。利用者の尊厳を重んじ安易に行動を制限するようなケアを慎み、委員会を定期的に開催してそれぞれの職員の役割を確認している。人権擁護の観点からも利用者が等しく、主体的に自分自身の意志で生活ができることを人的環境や住環境に配慮しながら自由に暮らせるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内の学習会で、緊急時の連絡対応など、確認することを維持しています。殆どの介護職員は、普通救命講習に参加していますが、機会を設けて、定期的に参加出来るようにしていきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、防火訓練を実施し、火災発生時の通報、避難誘導の手順確認を実施しています。台風などの災害発生時に備え、備蓄をし、月1回在庫、賞味期限等の確認を職員で実施しています。</p>	<p>年2回、夜間の火災想定で避難訓練を実施している。地域の協力体制を活かし、避難訓練への参加も要請している。「防災管理チェック表」が活用され、日勤リーダー、夜勤者の二重チェックを徹底している。備蓄を活用したシュミレーション訓練も実施、運営推進会議に消防職員も参加し助言をいただくなど防災についての意識が高い。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内の学習会や、ミーティングで、定期的に不適切な対応が無いか確認しています。今後も慣れから生じやすい言葉掛け、対応など確認をすることで、接遇についても意識して行きます。	職員の言葉使いは丁寧で、声のトーンにも気配りが感じられる。また、年2回自己評価をおこない、不適切な対応がないか振り返り、学習会などで自己研鑽している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ホームの日課以外に、個人に合わせた活動を実施することもあります。日課活動も声かけすることで、参加するか、しないか本人で決めてもらうなど、場面ごとで自身が決める機会を意識しながら対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や、食事の時間など、利用者個人に確認しながら、その方のペースで過していただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	起床時に、ブラシを用意すると、利用者様自ら、髪を整える場面も見られています。就寝は寝巻きに着替え、起床時に普段着を着ていただくことで、メリハリをつけられるようにサポートしています。定期的に訪問美容を利用したり、白髪が気になる方には、髪染めも手伝うことがあります。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と、食事を作る機会を年に数回ですが、設けています。また、食事の後は、お盆に片付けたり、その方に合わせて少しでも関わりが持てるようにしています。	食材は、地域で買い物したり、配達を依頼し確保しているが、地域の方の差し入れもたまにある。専任の調理担当があり、誕生日のリクエストメニュー、行事食を提供し季節感を味わってもらったり、栄養面や食事形態を工夫して食べやすく食事を楽しんでもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人ごとの水分量（平均）を確認し、少ないときは、飲み易いものを進めたり、体調の変化がないかなど、確認しています。職員で献立を作成しますが、バランスよく食材が入るように、意識しながら作成しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、職員と一緒に口腔ケアを実施しています。義歯を外す、装着する、嗽など本人ができることは促しながら進めています。また、月1回しか衛生士の口腔チェックを受け、ケアのアドバイスをしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	座る、握って立つ動作が可能であれば、トイレに行く機会をつくっています。おむつ排泄の方も、トイレのタイミングが合うようになり、布パンツで過せるようになった方もいます。	排泄のリズムを掴み布下着に変更するなど改善した方がおられたり、夜間のみポータブルトイレを併用し排泄の自立を図っている方がおられるが、プライバシーに配慮し、臭いなどなく居室は清潔感がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認を行い、便秘が続かないようにしています。食材も便通がよくなるものを検討しながら、自然排便に繋がるようにしています。また、整腸剤、下剤等も、排便の状況に合わせて、調整しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	午後より、毎日入浴の時間があり、利用者が入るかは決まっていたり、入浴が億劫な方もいるため、気持ちよく入れるように声かけ、時間帯など検討することもあります。	本人の希望や体調に配慮し、全員が毎日入浴されている。浴槽には、移動用リフトが設置してあり、利用者の身体能力など勘案し、本人に合った入浴方法にて支援している。また、毎回浴槽のお湯は入れ替えし気持ちよく入浴が楽しめるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は、利用者の希望に合わせています。昼食後も、暫く横になり過したいという方もおり、その方の時間に合わせながら対応しています。心配事、気になる事があり、寝付けない方は、スタッフと一緒に暫く話をしたり、側にいることで休みたくなった時に休んでいただくこともあります。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理が難しくなっているので、職員より介助しています。誤薬がないように、マニュアルを作成していますが、新たな問題が生じた場合、その都度改善しています。個人の服薬管理表も用意し、常に確認ができるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干す、たたむなどその方に合わせて手伝いをしてもらっています。「たたもうか?」と、利用者より声をかけていただいたり、介助が必要で迷惑をかけるから、できることはさせて欲しいといわれる方もいます。「お互い様」で、気遣いの負担が軽減できるように配慮することもあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力も頂きながら、墓参り、美容室へ出かけたり、外食をすることもあります。気候を見ながら、周辺の散歩、買い物など出かける機会を作っています。	天候の良い日は、近隣を散歩したり、ショッピングを楽しんでいるが、年間の行事計画を作成し、季節ごとの花見見物やバラ園などに遠足に出かけるなど折に触れてドライブしたり、家族に協力を頂きながら個別の外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者でお金を管理することが難しいので、家族やスタッフで対応しています。中には、手元に持って「お金がある。」ことが確認できるだけで、安心されるため、御家族と一緒に確認をしながらその方にあわせています。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご本人より、電話をしてもらいたいということはないが、遠方に住んでいるご家族より、連絡がある時は、電話で会話を楽しんでいただく機会もあります。毎月の様子は、ご本人の変わりに、介護職員で「今月の様子」をお便りとして、届けています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有する空間のため、排泄臭や、感染予防に配慮しています。洗面所、トイレなど使用頻度が多いため、定期的に清掃することで、清潔に保つこと、後から使う方が不快に感じないように意識しています。	毎朝、掃除や消毒を徹底し住環境を整備しているため臭いもせず清潔感のある居住空間である。洗面台は車いす対応で設置されているが、現在は、ほぼ全員が車いす移動である。天井は高く採光もあり、広々とした共有スペースである。廊下には、手すりが設置しており、途切れなく歩行ができるよう配慮されている。生花が飾られ季節感が感じられる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テレビ前のソファで、他利用者と一緒にくつろいだり、話をするなど、それぞれの時間を過してもらっています。部屋で休みたいなど、行きたい場所を伝えてもらい、介助しています。</p>		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に、使い慣れているタンスなど持ち込んでもらっています。家族の写真飾ったり、好きな花を飾ったりと、その方の好きなもの、思い出の品が多くあります。</p>	<p>家族写真、ラジカセ、整理タンスなど使い馴染んだ物を持ち込んだり、職員からのプレゼントである「1年間の思い出アルバム」が居室に置いてある。介助バーの位置を調整し床ずれ防止に配慮している。掃除が行き届き清潔感がある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室の呼び出しボタンを押してもらい、トイレに行きたいことが伝えられるように、繰り返し「これを押してください。」と伝えたり、出来る行為、動作があれば、安全面も確認した中で、自分でも出来ることを続けられるようにサポートしています。</p>		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない